

S-Stage KIT 取扱説明書

・このたびは、TAKEGAWA 商品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。

使用の際には下記事項を遵守頂きますようお願いいたします。

・取り付け前には、必ずキット内容をお確かめ下さい。万一お気付きの点がございましたら、お買い上げ頂いた販売店にご相談下さい。

イラスト、写真などの記載内容が本パーツと異なる場合がありますので、予めご了承下さい。

商品番号：01-05-500H A-Type

モンキー・ゴリラ	Z50J-1000001 ~ 1510400
6Vダックス	ST50-1000001 ~ 6346265
CD50	CD50-1300001 ~ 1330600
スーパーカブ50	C50-N000002 ~ V488897
	C50-Z000002M ~ Z069126M
	C50-5000005 ~ 5121324
	C50-5200011 ~
	C50-3000001 ~ 3431226
	C50-4000001 ~ 4223783

▲ 使用燃料についてのご注意 ▲

SステージKITは、ノーマルに比べて高圧縮比となるように設定しておりますので、燃料は必ずハイオクタン価ガソリンを使用して下さい。レギュラーガソリンを使用すると、異常燃焼を起こして本来の性能を発揮しない上に、ピストンが壊れて重大な故障を起こす可能性があります。KIT取り付け前に燃料タンクに残っていたガソリンにも注意して下さい。レギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

▲ スパークプラグについてのご注意 ▲

スパークプラグは必ずC8HSA(NGK)または、U24FS-U(DENSO)に交換し、電極部の焼け具合により番数を決定して下さい。

ご使用前に必ずお読み下さい

取扱説明書に書かれている指示を無視した使用により事故や損害が発生した場合、当社は賠償の責を一切負いかねます。

この製品を取り付け、原付免許、原付登録のまま一般公道を走行されると違反となり、運転者ご本人が罰せられる対象となります。一般公道を走行される場合は、小型2輪以上の免許を取得し、必ず市町村の役所で原付2種の登録を行い、強制賠償保険の排気量アップの申請を行って下さい。

この製品を取り付け使用し、当製品以外の部品に不具合が発生しても当製品以外の部品の保証は、どのような事柄でも一切負いかねます。

商品を加工等された場合は、保証の対象にはなりません。

他社製品との組み合わせのお問い合わせはご遠慮下さい。

当製品は、上記適応車種、フレーム番号の車両専用用品です。他の車両には取り付け出来ませんのでご注意下さい。

取り付けの際には、工具等を準備し、取付け要領に従って十分注意して作業を行って下さい。尚、この取扱説明書やホンダ純正サービスマニュアルは基本的な技能や知識を持った方を対象としております。取り付け等の経験の無い方、工具等の準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。

ボルト、ナット、ロックピンは再使用しますが、摩耗、損傷が激しいものは再使用せず、必ず新品のものをご使用下さい。

ノーマルキャブレターを装着される方は、エアクリーナーボックスおよび、エアクリーナーエレメントは取り外さないで下さい。キャブレターを交換される方は、個々に合ったセッティングを行って下さい。この事柄を無視した場合、エンジントラブルが起こり、重大な事故につながる恐れがあります。

この取扱説明書に記載している作業は、モンキーの車両を主体としており、他の適応車種には適さない場合があります。

燃料は必ず無鉛ハイオクタン価ガソリンをご使用下さい。

セルモーター始動による車両につきましては、バッテリーが満充電の場合でもセル始動が困難になる場合があります。

▲ 注意 この表示を無視した取り扱いをすると人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

- ・一般公道では、法定速度を守り遵法運転を心掛けて下さい。
(法定速度を越える速度で走行した場合、運転者は道路交通法、速度超過違反で罰せられます。)
- ・作業を行う際は、必ず冷間時(エンジンおよびマフラーが冷えている時)に行ってください。(火傷の原因となります。)
- ・作業を行う際は、その作業に適した工具を用意して行って下さい。(部品の破損、ケガの原因となります。)
- ・規定トルクは、必ずトルクレンチを使用し、確実に作業を行ってください。(ボルトおよびナットの破損、脱落の原因となります。)
- ・製品およびフレームには、エッジや突起がある場合があります。作業時は、手を保護して作業を行ってください。(ケガの原因となります。)
- ・走行前は、必ず各部を点検し、ネジ部等の緩みが無いことを確認し緩みが有れば規定トルクで確実に増し締めを行ってください。
(部品の脱落の原因となります。)
- ・シリンダーヘッドは、必ず指定トルクで増し締めを行ってください。
- ・ガスケット、パッキン類は、必ず新品部品を使用して下さい。また、再使用する部品については、よく点検し摩耗や損傷がある場合は、必ず新品部品と交換して下さい。

▲ 警告 この表示を無視した取り扱いをすると人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

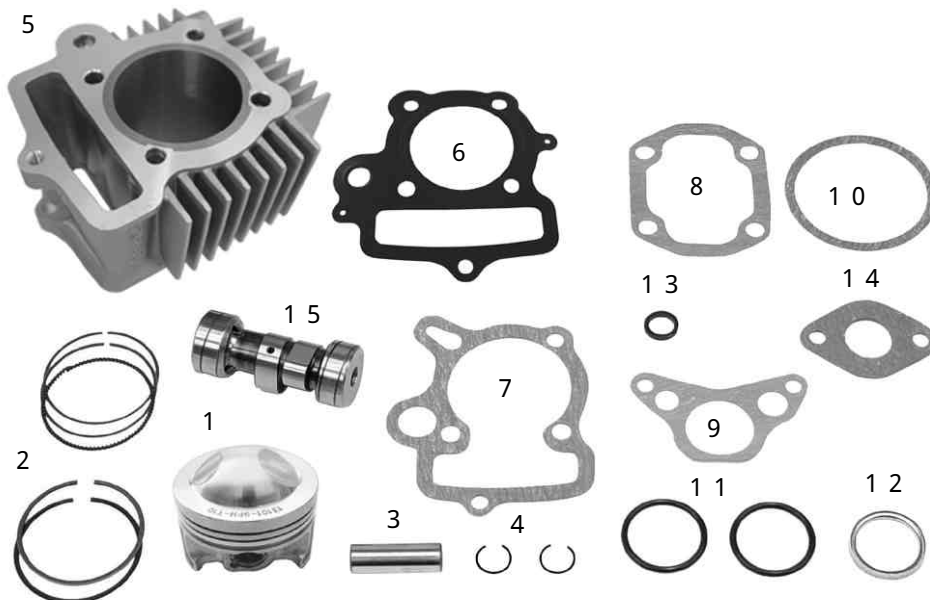
- ・エンジンを始動させての点検は、必ず換気の良い場所で行ってください。密閉した様な場所では、エンジンを始動させないで下さい。
(一酸化炭素中毒になる恐れがあります。)
- ・走行中、異常が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停止させ、走行を中止して下さい。(事故につながる恐れがあります。)
- ・作業を行う際は、水平な場所で車両を確実に安定させ、安全に作業を行ってください。(作業中に車両が倒れてケガをする恐れがあります。)
- ・点検、整備は、取扱説明書又は、サービスマニュアル等の点検方法、要領を守り、正しく行って下さい。
(不適当な点検整備は、事故につながる恐れがあります。)
- ・点検、整備等を行った際、損傷部品が見つければ、その部品を再使用する事は避け損傷部品の交換を行ってください。
(そのまま使用すると事故につながる恐れがあります。)
- ・ガソリンは、非常に引火しやすい為、一切の火気を避け燃えやすい物が回りに無い事を確認して下さい。又、気化したガソリンの滞留は、爆発等の危険性がある為、通気の良い場所で作業を行ってください。

性能、デザイン、価格は予告無く変更されます。あらかじめご了承下さい。

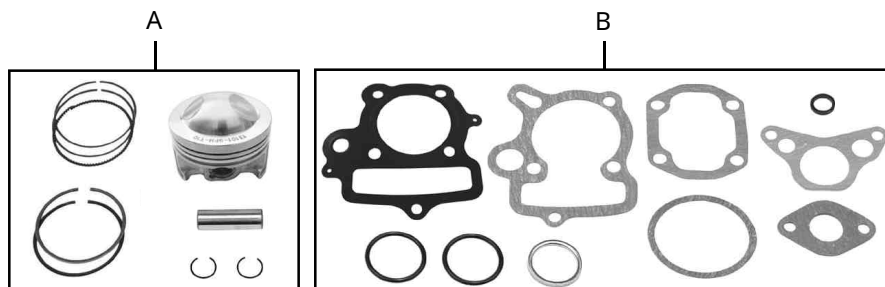
クレームについては、材料および加工に欠陥があると認められた商品に対してのみ、お買い上げ後1ヶ月以内を限度として、修理又は、交換させて頂きます。但し、正しい取り付けや、使用方法など守られていない場合は、この限りではありません。修理又は交換等にかかる一切の費用は対象となりません。

この取扱説明書は、本商品を破棄されるまで保管下さいますよう、お願い致します。

キット内容



番号	部 品 名	個数	リペア品番	入数
1	ピストン	1	1 3 1 0 1—G P H—T 1 0	1
2	ピストンリングセット	1	0 1—1 5—0 1 4	1
3	ピストンピン	1	0 0—0 1—0 0 1 3	1
4	ピストンピンサークリップ	2	0 0—0 1—0 0 0 3	6
5	シリンダー	1	0 1—0 1—0 2 4 1 H	1
6	ヘッドガスケット	1	1 2 2 5 1—G F L—T 1 0	1
7	シリンダーガスケット	1	0 0—0 1—0 0 6 7	2
8	ヘッドカバーガスケット	1	1 2 3 9 1—1 6 5—T 0 1	1
9	右サイドカバーガスケット	1	1 2 3 9 4—1 6 5—T 0 1	1
10	左サイドカバーガスケット	1	1 2 3 9 5—1 6 5—T 0 1	1
11	タペットキャップOリング	2	0 0—0 1—0 0 3 4	4
12	エキゾーストパイプガスケット	1	0 0—0 1—0 0 6 4	2
13	ラバーパッキン 16mm	1	0 0—0 1—0 0 6 6	2
14	インレットパイプガスケット	1	0 0—0 3—0 0 0 9	3
15	カムシャフト	1	0 1—0 8—0 3	1



A	ピストンキット	0 1—0 2—5 1 0
B	ガスケットA	0 1—1 3—0 6 0 8

リペアパーツはリペア品番にてご発注下さい。尚、単品出荷出来ない部品もありますので、その場合はセット品にてご注文下さいますようお願い致します。

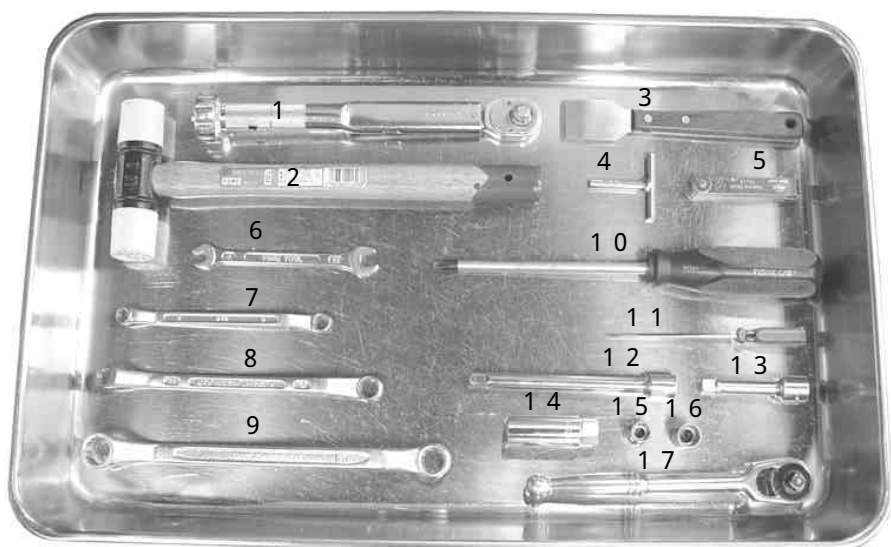
作業の前に

- 作業を行う前に車両は水平な場所で確実に安定させて下さい。備え付けのサイドスタンドで車両を支えるよりもレーシングスタンド等の使用をお勧めします。車両を確実に安定させながら作業を行うことが出来ます。
- 作業は必ずエンジンを停止させた上に冷間時（エンジンおよびマフラーが冷えている時）に行ってください。
- フューエルコックはOFFにして下さい。
- 再使用するボルトやナットや各パーツは取り外した際にホコリやオイルなどの汚れを取り除いてきれいにして下さい。
- 取り外したボルトやナットや各パーツは無くさないよう、どの場所に使用するのがわかるように保管して下さい。

工具について

- 正しい工具を正しく使用しない場合はボルトやナットや各パーツのかかり部分やネジ部分が破損する場合があります。
- 取り付けの経験が無いほど正しい工具が必要です。また、それらを正しく使用する経験も同様に必要です。準備が不十分な方は、技術的信用のある専門店へご依頼されることをお勧め致します。
- この商品の取り付けに使用する工具等を下記に掲載しますので参考にして下さい。なお、車種やその年代により工具の内容が異なる場合がありますのでご了承下さい。

工具は同じ名前のもので数々のメーカーや種類があったり、同じ工具でも名前が違ったりします。また、好みもありますので参考程度でお考え下さい。

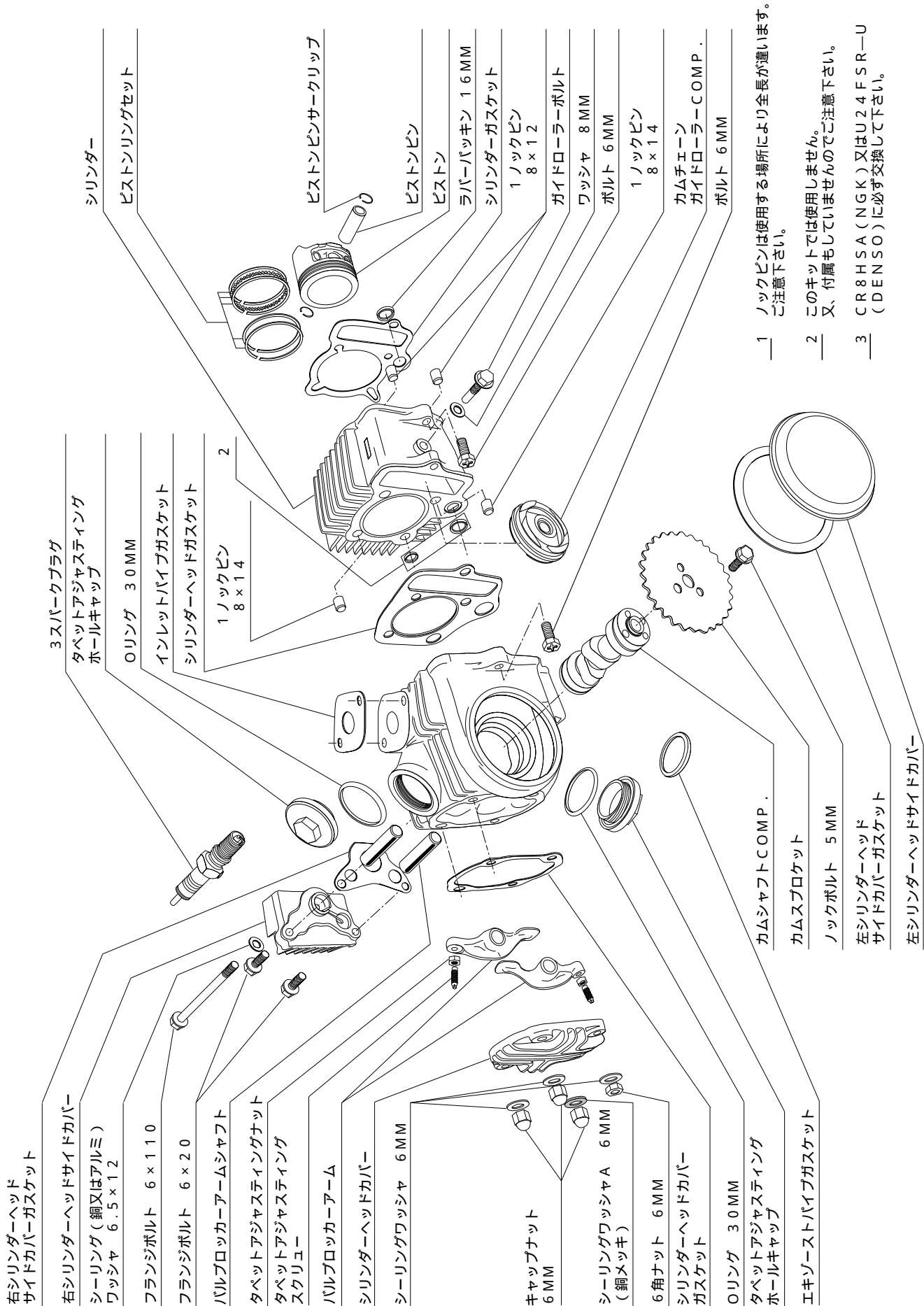


1	トルクレンチ
2	プラスチックハンマー
3	スクレーパー
4	タペットアダプタレンチ
5	シクネスゲージ
6	スパナ 8 - 10
7	メガネレンチ 8 - 9
8	メガネレンチ 10 - 12
9	メガネレンチ 14 - 17
10	プラスドライバー サイズ1
11	マイナスドライバー 極細先
12	エクステンションバー 中
13	エクステンションバー 小
14	プラグソケット 16mm
15	ソケット 12mm
16	ソケット 10mm
17	ラチェットレンチ
	ウエス
	エンジンオイル（塗布用）

ボルトについて

- 普通、ボルトとナットは反時計方向に回すとゆるみ、時計方向に回すと締まります。
- ネジを締める場合は最初から工具を使用せず、まずは指で締まるところまで締めましょう。
- ネジをゆるめるということは、締まっている状態から3～4回転反時計方向に回すことをいい、取り外すということはネジが取れるまで反時計方向に回すことをいいます。
- ネジを締めるということは、ネジをゆるまないように締めることをいいます。ただ、ボルトは強く締め過ぎると折れ、弱過ぎると走行中に振動等でゆるんで部品脱落の恐れがあり、大変危険です。ボルトが折れない・ゆるまないような締める力を数値として表したのが規定トルクです。また、その数値はボルトの大きさによって変わります。
- トルクレンチを用意することが出来ない方は折れない・ゆるまない力でネジを締めれるのであれば試して下さい。但し、当社では責任を負いません。トルクレンチが無くてもどのぐらいの力で締めると折れるのか、ゆるむのかは経験と勘でしか補えません。

各部品名称



●ご走行前に

お願い
一般公道を走行される場合は小型 2 輪以上の免許を取得し、市町村の役所で原付 2 種の登録を行い、強制賠償保険の排気量アップの申請を行って下さい。
原付免許、原付登録のまま一般公道を走行されると違反となり運転者ご本人が罰せられる対象となります。
キット内の原付 2 種マークをお貼り下さい。

使用燃料について
燃料は必ずハイオクタン価ガソリンをご使用下さい。
燃料タンクにレギュラーガソリンが残っている場合は、必ずハイオクタン価ガソリンと入れ替えて下さい。

スプロケットの変更
このキットを取り付けると出力がアップし、ノーマルのスプロケットのままではローギアすぎて扱いにくい状態になります。また、各部の磨耗が激しくなり、エンジン寿命に悪影響を及ぼすだけでなく最悪の場合はエンジンを壊してしまう恐れがあるために必ずドライブ/ドリブンスプロケットを変更し、スプロケットのハイギヤー化を各自で行って下さい。
スプロケットはキット内に含まれておりません。
スプロケットはクラッチ形式やホイールサイズにより変わります。下の表を参考にして下さい。また、体重や使用用途、好みによるものもありますので参考程度でお考え下さい。
ドリブンスプロケットを変更する時はリアホイール周りを取り外します。レーシングスタンド等で車両を確実に支え、リアホイールを浮かせて作業を行って下さい。

S—ステージ Aタイプ 推奨スプロケット(体重 65kg 時)

車種	仕様			推奨スプロケット	
	リアホイールサイズ	クラッチ	トランスミッション	ドライブスプロケット(フロント)	ドリブンスプロケット(リア)
6V モンキー	8 インチ	遠心	3 速	15	28
6V モンキー・ゴリラ	8 インチ	マニュアル	4 速	15	25
		強化クラッチ	4 速	16	25
ベンリーCD50	17 インチ	マニュアル	4 速	16	42、43(ノーマル)
スーパーカブ50	17 インチ	遠心	4 速	16	42
			3 速	16	35
6V ダックス	10 インチ	遠心	3 速	16	31
		マニュアル	4 速	16	31

ノーマルのスプロケットから推奨スプロケットに変更すると調整だけではドライブチェーンのたるみを無くすることが出来ない、または足りなくなる場合があります。チェーンカッター等を使用してチェーンを短くする必要や、新たにドライブチェーンを用意する必要があります。特にモンキーの場合などはスイングアームの長さによりチェーンの長さも変わります。

●更なる性能を発揮させるために

キャブレター
S—ステージの出力を有効に引き出す、車種専用のビックボアキャブレターキットを取り付けることにより、更なるパワーアップが可能です。

S—ステージ Aタイプ 推奨ビックボアキャブレターキット

車種	品番
モンキー・ゴリラ Z50J-1000001～1195595は除く	03—05—320
ダックス ST50-6300022～6346265は除く	03—05—321

マフラー
更なるパワーアップには当社製各種マフラーをご使用下さい。

オイルポンプ
出力アップに伴い、エンジン発熱量も増大します。大量のオイルを循環し、各部の冷却や負担を軽減するスーパーオイルポンプの装着をお勧めします。

S—ステージ Aタイプ 推奨スーパーオイルポンプ

車種	品番
モンキー・ゴリラ ベンリーCD50	01—16—0041
ダックス	

オイルクーラー
エンジンに長時間の負荷を与える走行はエンジン発熱量が更に増大します。油温を適切に保ち、高温時に発生する油膜切れ等を防止するオイルクーラーキットの装着をお勧めします。

STD部品取り外し

1. キャブレターを取り外す



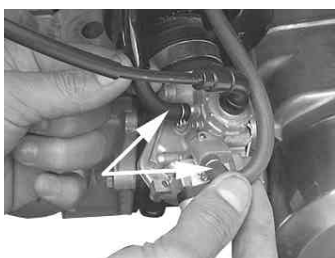
ガソリンタンク左下部にあるガソリンコックをOFFにする。



シリンダーヘッドとインレットパイプを止めているボルト2本を反時計方向に回し取り外す。



エアクリーナーステー部のボルトを反時計方向に回し取り外す。



フューエルホースと大気ホースを取り外す。
スロットルケーブルを取り付けたままキャブレターASSYを車体から離し左前方のウインカーにつっかけておく。

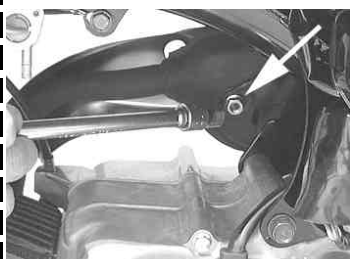
2. マフラーを取り外す



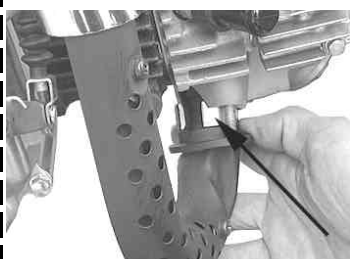
EXパイプ部のナット2個を反時計方向に回し取り外す。



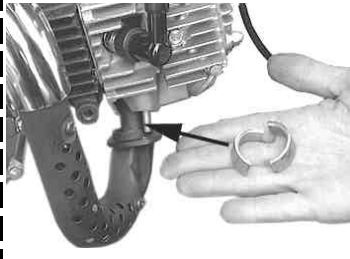
マフラー本体を止めている6角ボルトを反時計方向に回し取り外す。



マフラー本体裏側に止まっているナットを反時計方向に回し取り外す。



フランジのカラー2個を取り外し外側に引く様にしてマフラーを車体から取り外す。



3. フロントフェンダーを取り外す



フロントフェンダー裏側の6角ボルト2本を反時計方向に回し取り外す。

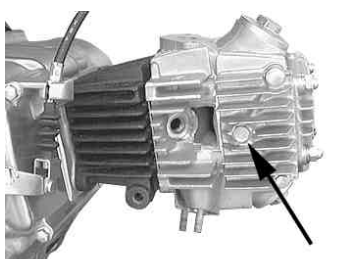
4. スパークプラグを取り外す

プラグキャップをプラグから引っ張って取り外す。必ずキャップ部分をつかんで引っ張って外して下さい。



プラグレンチを使いプラグを反時計方向に回し取り外す。

5. シリンダーヘッド左カバーを取り外す



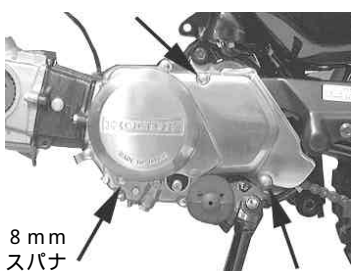
シリンダーヘッド右カバーの真ん中の6角ボルトを外すと左カバーが外れる。(ボルトを外しても外れない場合6角ボルトを2～3山ねじ込み6角ボルトの頭をハンマー等で軽くたたくと外れる)



6. クランクケース左カバー取り外す



シフトペダルの6角ボルトを外しシフトペダルを反時計方向に回し取り外す。



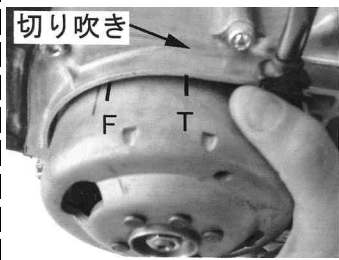
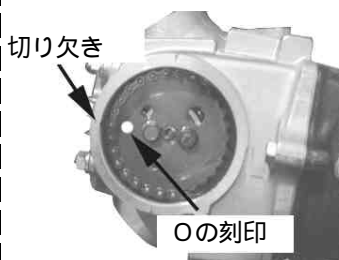
8mmスパナ
クランクケース左カバーを止めているボルト3本を反時計方向に回し取り外す。

7. タペットキャップ2個を取り外す

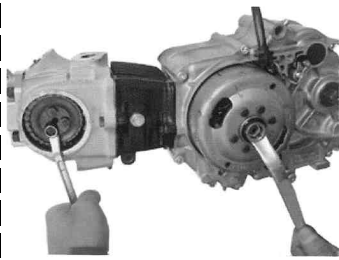


タペットキャップ2個を反時計方向に回し取り外す。

8. カムスプロケットを取り外す



フライホイールのTマークとカムスプロケットのOマークが各切り欠きに合う様にフライホイールを反時計方向に回転させて合わせる。

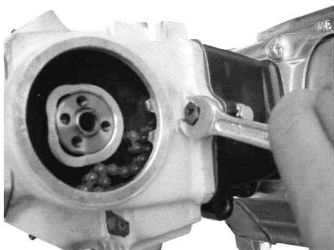


フライホイールを固定しカムスプロケット6角ボルト3個を反時計方向に回し取り外す。



カムプロケットを小型のマイナスドライバー等でこじてカムシャフトから外す。
カムチェーンをカムスプロケットから外してカムスプロケットを取り出す。

9. シリンダーヘッドサイドボルトを取り外す



シリンダーヘッドとシリンダーを止めているシリンダーヘッドサイドボルトを反時計方向に回し取り外す。

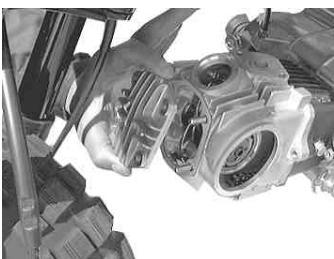


シリンダーのガイドローラーボルトとシリンダーとクランクケース間のサイドボルトを反時計方向に回しゆるめる。

10. シリンダーヘッドカバーを取り外す



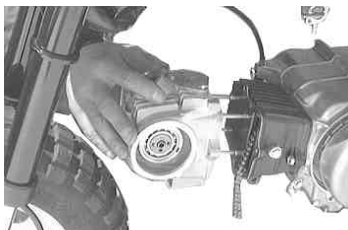
シリンダーヘッドカバーを止めているナット4個を対角の順番に反時計方向へ回し取り外す。ナット下にあるワッシャー4枚を取り外す。



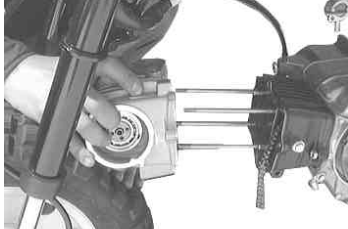
ヘッドカバーを取り外す。(かたい場合はプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す) シリンダーヘッドにガスケットが残った場合は、スクレーパーかカッター等できれいに取り除く。

11. シリンダーヘッドを取り外す

フロントタイヤの空気を抜く。(プラスチックドライバーの先などでバルブを押すとエアが抜けますのでシューという音がなくなるまで押し続けます。)



シリンダーヘッドをシリンダーから前方へ引っ張って取り外す。(かたい場合はシリンダーヘッドをプラスチックハンマーで軽くたたき、取り外す)

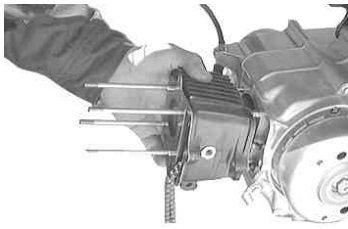


フロントタイヤを押しながらシリンダーヘッドを取り外す。ここでタイヤの空気を抜いた訳をご理解いただきたいと思います。ノックピン2個は再使用するので取り外ししておく。

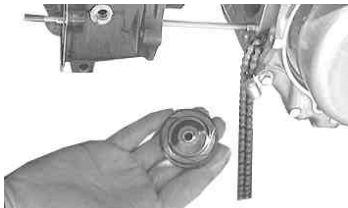
12. シリンダーを取り外す



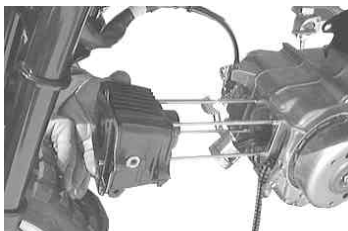
ゆるめておいたガイドローラーボルトとシリンダーサイドボルトを反時計方向に回し取り外す。



シリンダーを引っ張って取り外す。(かたい場合はプラスチックハンマーでシリンダーを軽くたたき、取り外す)



シリンダーを抜く途中でカムチェーンガイドローラーが出てくるので取り外す。



ピストンが抜けたらタイヤを手で押さえながらシリンダーを前方へ取り外す。

13. ピストンを取り外す



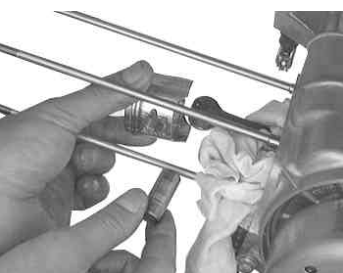
クランクケースのシリンダーホールとカムチェーン部にゴミや部品などを絶対落とさないようにウエスを詰め込む。



ピストンサークリップの片側を取り外す。ピストンピン穴の切り欠き部を利用してこじると外れます。

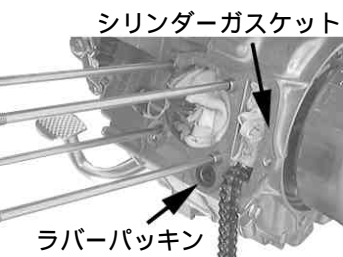


ピストンピンをピストンサークリップが付いていない方向へ取り外す。ピストンサークリップの付いている方向からマイナスドライバーで押してあげると簡単にとれます。

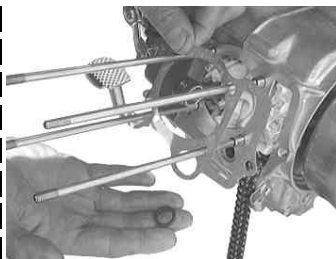


ピストンを取り外す。

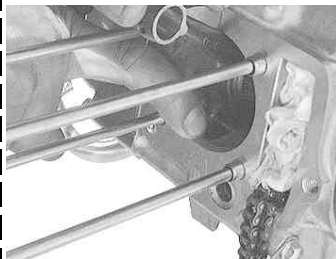
14. シリンダーガスケット・ラバーパッキン・ノックピンを取り外す



ラバーパッキン



ガスケットがきれいにはがれない場合クランクケースにキズを入れないようにスクレイパーやカッターできれいにはがすこの時クランクケースセンターガスケットがシリンダーベース面やシリンダーホール部にはみ出ている場合は切り取っておく。クランクケース内にゴミや部品などを絶対落とさないように。



上写真の指さし部にはみ出ているガスケットがあれば切り取っておく。

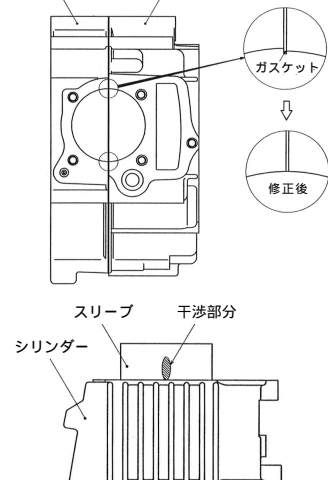
アルミシリンダー取り付け時の注意

左右クランクケースのズレ等により、シリンダーを取り付ける際、クランクケース合わせ面のスリーブ穴、丸印部分とシリンダーのスリーブの斜線部分及びケース内部で、干渉する場合があります。そのままの状態で使用するとスリーブが変形しエンジントラブルの原因となりますので必ず点検、修正して下さい。この作業は難易度は高いけれどチョット、プロの作業に近づいた感じはありますね。

修正要領

1. クランクケース内に削り粉が入らないようにしっかりとウエスを詰める。
2. クランクケース合わせ面のズレの出っ張っている部分を引っ込んでいる部分と同じ高さになるまでヤスリで削ります。
3. 削り取ったら削り粉がクランクケース内に入らないよう慎重にウエスを取り除く。
4. ウエスを取り除いた後は、きれいなウエスをクランクケースの穴に詰めておく。
5. キットの組立が終わってエンジンをアイドリングで数分かけた後、すぐにエンジンオイルを新品に交換すればOK。

右クランクケース 左クランクケース



S - StageKIT 取り付け

1. ピストンを組み付ける



ピストンの片側に付属のピストンピンサークリップをサークリップ溝にきっちりはめ込む。この時、サークリップの合い口は切り欠き部を避けて取り付け下さい。

エキゾースト
マーク

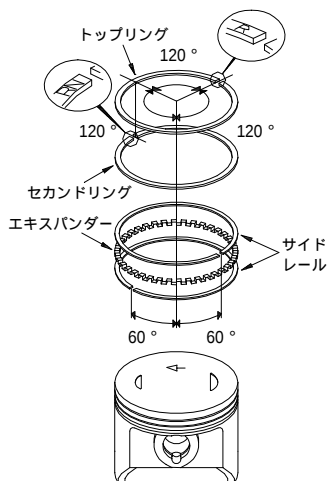


左側

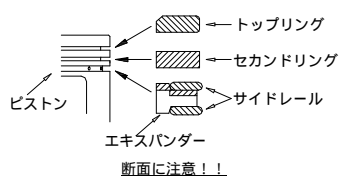
ドライバーでピストンにキズを付けないように押し込むと比較的簡単に取り付けられます。ピストンサークリップは左側に先にはめ込みます。

ピストンリングみぞにエンジンオイルを塗りピストンリングをオイルリングエキスパンダー、下オイルリングサイドレール、上オイルリングサイドレール、セカンドリング、トップリングの順に取り付ける。

下図を参考にして、各ピストンリングの合い口を合わせる。



トップリングの上面にはRの刻印セカンドリングの上面にはRNの刻印があります。



オイルリングエキスパンダーを入れる。



下オイルリングサイドレールを入れる。



上オイルリングサイドレールを入れる。



セカンドリングを入れる。

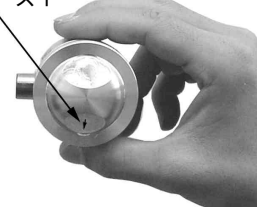


トップリングを入れる。

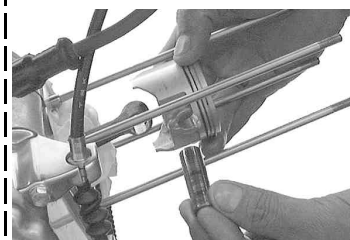


ピストンピン部とコンロッドにエンジンオイルを塗りピストンピンを取り付ける。

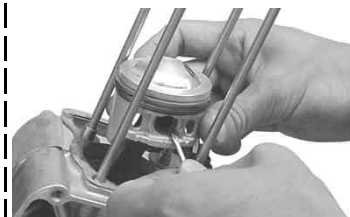
エキゾースト
マーク



ピストンヘッド部三角マークの先を下(エキゾースト側)になるようにしてピストンを取り付ける。



ピストンに三分の程度ピストンピンを挿入しておいて取り付けのも簡単な方法ではある。付属のピストンピンサークリップをサークリップ溝にきっちりはめ込む。



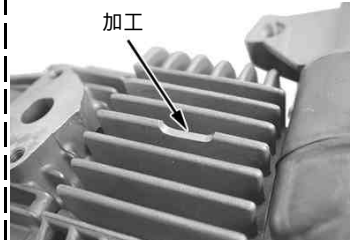
ドライバーでピストンにキズを付けないように押し込むと比較的簡単に取り付けられます。押し込み中にサークリップが外れて飛んでしまうことがあるので慎重に行ってください。目に入らぬように防護メガネなどを着用して下さい。詰っていたウエスを取り外す。

2. シリンダーの取り付け

ノーマルキャブレターはシリンダーの冷却フィンと干渉するので、シリンダーの干渉部分を加工してから取り付ける。(Vシリンダーの場合)



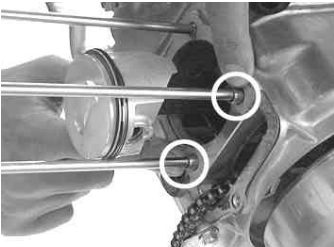
加工



シリンダーベースガスケット面のシリンダー側とクランクケース側をシンナー等で脱脂する。



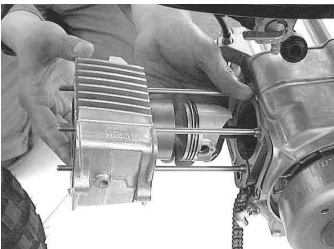
シリンダーガスケットとラバーパッキンを取り付ける。



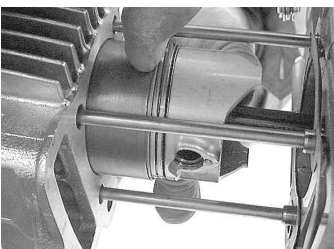
ノックピン2個が取り付けられているか点検。



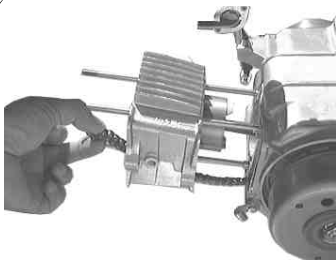
キットのシリンダー内にエンジンオイルを塗布し指で均等に塗り広げる。



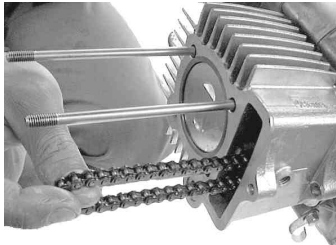
タイヤを押さえながらシリンダーを入れていく。



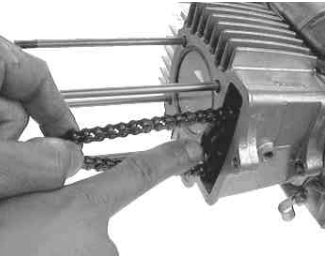
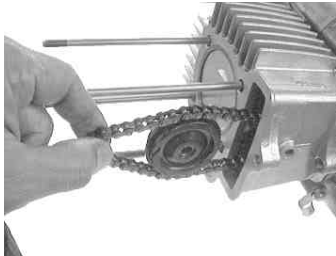
シリンダーをピストンリングの合い口がずれないようにしながら指で押し少しずつはめる。



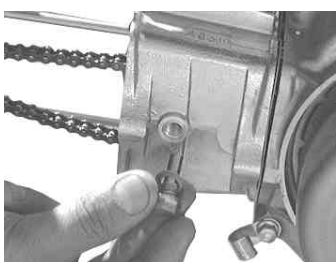
リングがシリンダーにはいったらカムチェーンをシリンダーに通しシリンダーをクランクケースにはめる。



カムチェーンを引っ張りながらガイドローラーをつける。



シリンダーのガイドローラーボルト穴にガイドローラーのセンターが合う様に押し込む。

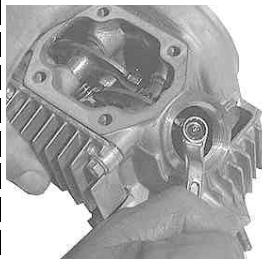


ガイドローラーボルトを取り付ける。
(指で閉まる程度まで仮止め)



シリンダーサイドボルトを取り付ける。
(指でしめる程度まで仮止め)

3. カムシャフト交換



シリンダーヘッドに組まれているロッカーアームのタペットナットとボルトを緩める。
タペットナットを緩めた時点でタペットボルトをナットと一緒に取り外す。



カムシャフトにカムスプロケットボルトを取り付け、引っ張るかプラスチックハンマーでヘッドを軽くたたくと抜けてくるので無理に引っ張らずカムシャフトを回しながら取り外す。



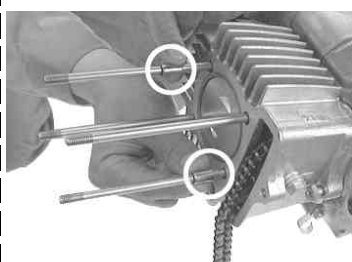
キット内のカムシャフトを逆の手順で取り付ける。
カムシャフト・カムシャフトベアリングにきれいなエンジンオイルを塗布する。入りにくてもハンマー等でたたかず手で入れる。



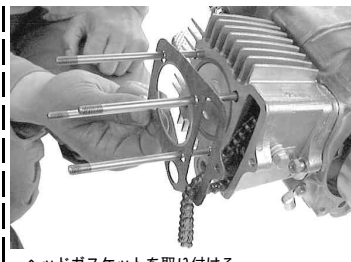
ロッカーアームのタペットスクリューを時計方向に回して取り付ける。

4. シリンダーヘッド取り付け

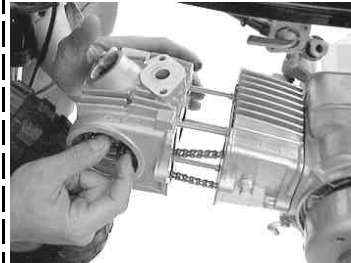
シリンダーヘッド面とシリンダー上面をシンナー等で脱脂する。



シリンダーにノックピン2個を取り付ける。



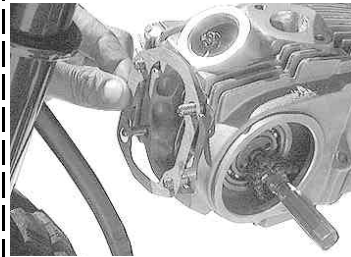
ヘッドガスケットを取り付ける。



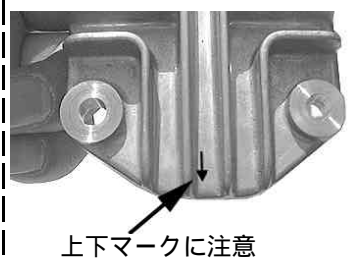
タイヤを手で押しながらシリンダーヘッドをスタットボルトに通す。
シリンダーヘッドにカムチェーンを通しながら取り付ける。



カムチェーンはシリンダーの方に落ちないようにカムシャフトの真ん中の穴にドライバー等を入れてカムチェーンを止めておく。

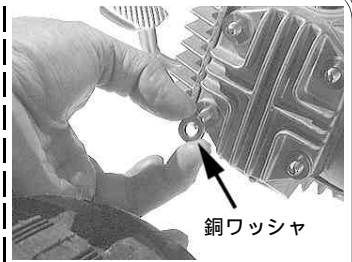
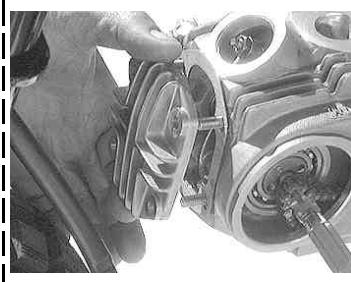


シリンダーヘッドカバーのガスケットとヘッドカバーを取り付ける。



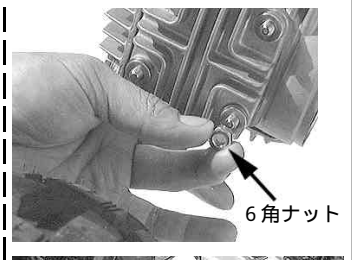
上下マークに注意

矢印は下の方向です。

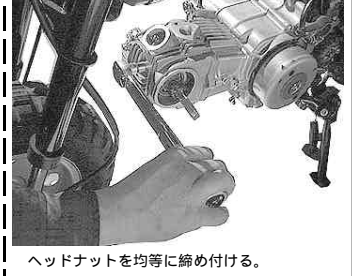


銅ワッシャ

ヘッドカバーのワッシャとナットを取り付ける。
(エンジンを前から見て左下が銅ワッシャ残りの3つは鉄ワッシャ、右下が6角ナット残りの3つがふくろナット)

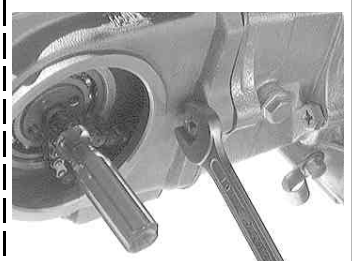


6角ナット

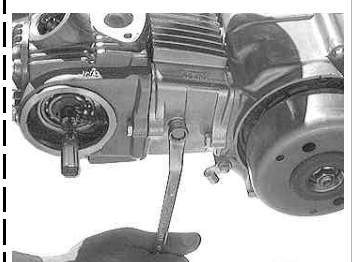


ヘッドナットを均等に締め付ける。
(トルクレンチがない場合は対角に少しずつしっかり締める)
締め付けトルク

$12\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.2\text{ kgf}\cdot\text{m}$)



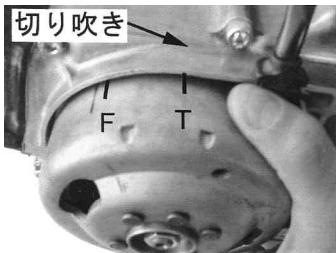
ヘッドサイドボルトを取り付ける。先に仮止めていたガイドローラーボルトとシリンダーサイドボルトを締め付ける。



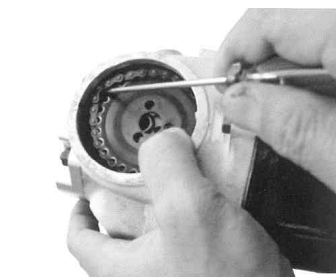


締め付けトルク
ガイドローラーボルト
10 N・m (1.0 kgf・m)
サイドボルト上下
10 N・m (1.0 kgf・m)

5. カムプロケットの取り付け



フライホイールのTマークをクランクケースの切りかき部に合わせる。
カムプロケットボルト穴をシリンダーヘッドの切り欠き方向に向けたとき刻印が上になるようにセットする。それがカムシャフトの圧縮上死点です。



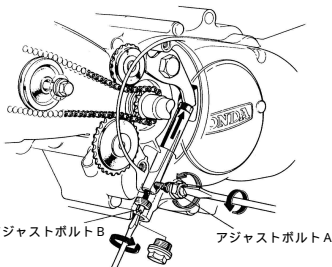
カムプロケットをはめたあとはボルトを取り付ける。カムチェーンにカムプロケットをかけながらカムプロケットのOマークとシリンダーヘッドの切りかき部が合うようにカムチェーンをはめてカムシャフトに取り付ける。



フライホイールを固定してカムプロケットボルトを3本締め付ける。
締め付けトルク 9 N・m (0.9 kgf・m)

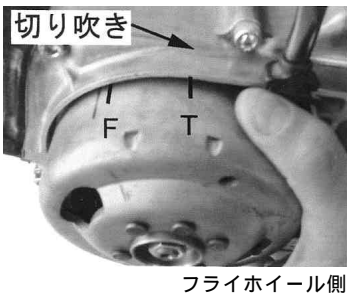
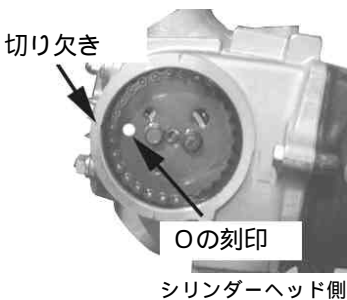
6. カムチェーンの調整

○カムチェーンの調整を行った場合は、「14. 点火タイミング点検」を行って下さい。

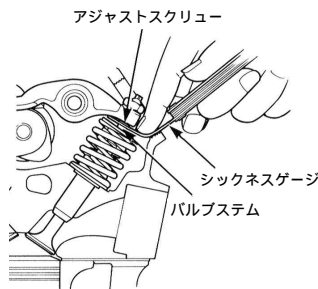
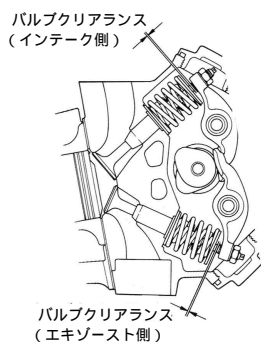


8 mmナットを緩め、アジャストボルトAを緩めれば、スプリングにより自動調整されますが、カムチェーンの張りが十分でない場合はアジャストボルトAを緩めたままアジャストボルトBを徐々に締め込み、フライホイールを回しても、カムプロケットとのガタが無い程度に調整を行う。アジャストボルトAを締め込み、8 mmナットを締め込む。

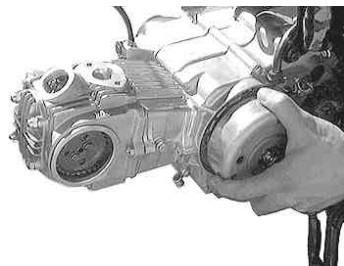
7. バルブタイミング調整とタペット調整



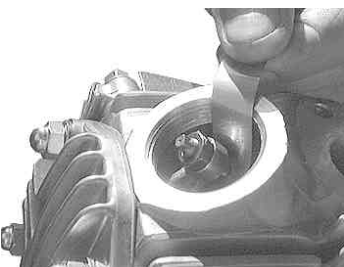
カムシャフトのOマークとフライホイールのTマークがそれぞれの切りかきに合うように止める。磁石の反発でフライホイールはピッタリと止まらないがカムプロケットを取り付けてTマークとOマークが同時に合えばOK。



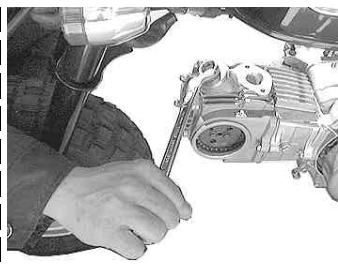
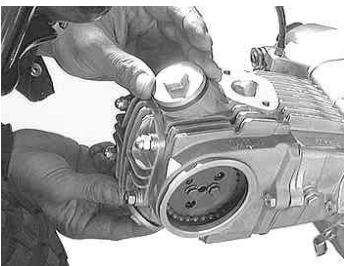
ロッカーアームのタペットスクリーンを締め込んでいきタペットスクリーンとバルブステムエンドの間に0.05ミリのシムネスゲージを入れて少し抵抗があるくらいで引き抜ける様に合わせてタペットナットを締め付ける(少し抵抗があるというのがわからない場合0.07と0.03のシムネスゲージを用意して0.07がすき間に入らず0.03がゆるく入る様に合わせればだいたい0.05ミリということになる)IN・EX共に0.05ミリに合わせる。



タペット調整後、反時計方向にフライホイールを2回転手で回した後でTマークとOマークを合わせる。



タペットすき間が変化していないか点検しすき間が合っていればOK、くるっている場合は調整する。

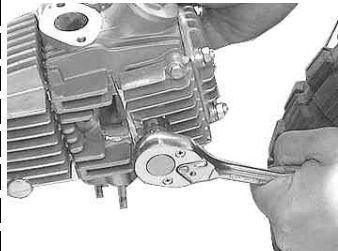
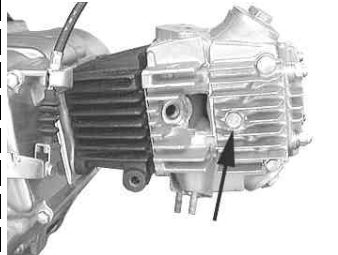
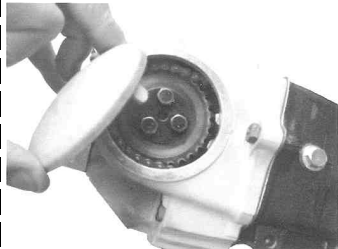


タペットキャップ2個を取り付ける。
締め付けトルク
12 N・m (1.2 kgf・m)

8. シリンダーヘッド左カバー取り付け

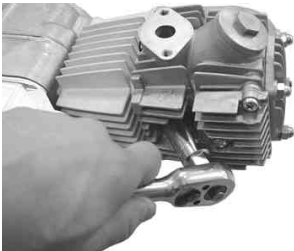


シリンダーヘッド左カバーガスケットと左カバーを取り付ける。
(左サイドカバーがボルトを締めたときに右回りに回らないように回り止めを合わせる)



シリンダーヘッド右側の六角ボルト(矢印)を締める。
締め付けトルク
12 N・m (1.2 kgf・m)

9. スパークプラグの取り付け



プラグレンチを使いプラグを取り付ける。

締め付けトルク

$11\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.1\text{ kgf}\cdot\text{m}$)

プラグキャップをプラグに取り付ける。



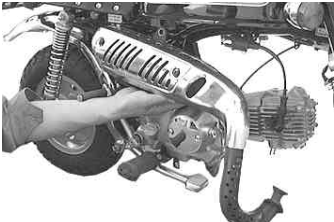
マフラー本体を止めている6角ボルトを取り付ける。(仮止め)

締め付けトルク

$26\text{ N}\cdot\text{m}$ ($2.7\text{ kgf}\cdot\text{m}$)

仮止めの三カ所を締め付ける。

10. ノーマルマフラーの取り付け



マフラーは、先にテールパイプをリヤショックの内側を通しフランジ部分をシリンダーヘッドの排気出口付近まで持っていく。



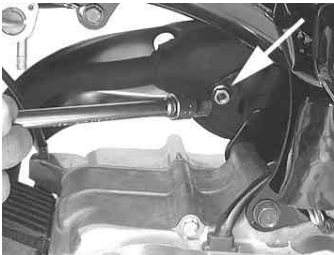
フランジのカラー2個をエキゾーストパイプを挟み込むようにして取り付ける。



E Xパイプ部のナット2個を締める。(仮止め)

締め付けトルク

$10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)



マフラー本体裏側にナットを取り付ける。(仮止め)

締め付けトルク

$10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)

11. ノーマルキャブレターの取り付け



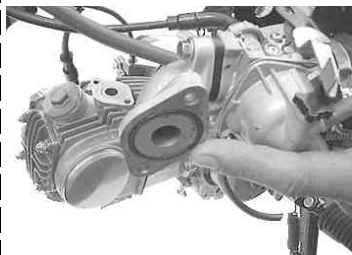
エアクリーナーステー部のボルトをアース線と共締めで取り付け。

締め付けトルク

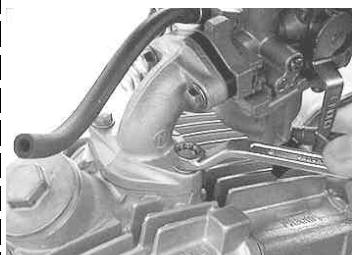
$10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)



フューエルホースと大気ホースを取り付ける。



インレットパイプにOリングが付いていることを確認する。



シリンダーヘッドとインテークマニホールドを止めているボルト2本を取り付ける。

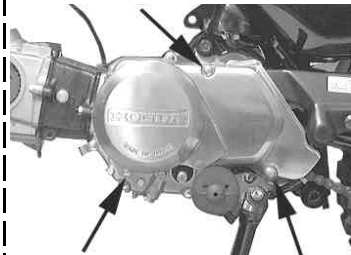
締め付けトルク

$10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)



フューエルコックをONにする。

12. クランクケース左カバーの取り付け



クランクケース左カバーを止めているボルト3本を取り付ける。

締め付けトルク

$10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)



チェンジペダルを取り付ける。

締め付けトルク

$10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)

13. フロントフェンダーを取り付ける



フロントフェンダー裏側の6角ボルト2本を締め付けて取り付ける。

締め付けトルク

$10\text{ N}\cdot\text{m}$ ($1.0\text{ kgf}\cdot\text{m}$)

タイヤ空気を入れる。

エンジンから足廻りまで取り付けたボルト類に緩みがないかチェックする。

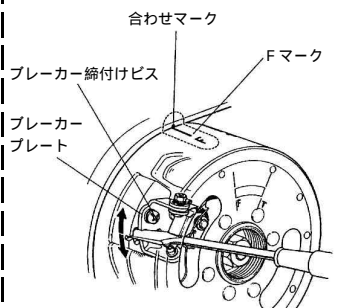
14. 点火タイミングの点検、調整

点火タイミングがずれていると、本来の性能を発揮しない上に、重大な故障にもつながる恐れがあります。点火タイミングの点検と調整を行うことをおすすめします。ご自分で出来ない場合は、バイクショップ等で点検することをお勧めします。



タイミングライト

タイミングライト(00-01-009)を用いて、アイドル時にフライホイールの'F'マークとクランクケースの合わせマークとが合っているか確認する。

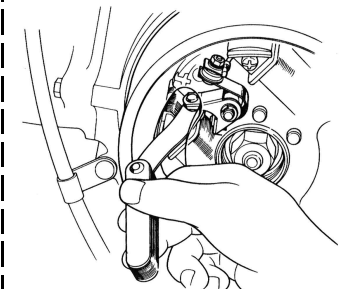


合わせマーク

Fマーク

ブレーカー締め付けビス

ブレーカープレート



調整はブレーカー締め付けビスを緩め、ブレーカープレートを少しずつ動かして行う。

調整を行った後に、クランクシャフトを回してポイントの隙間が一番開く位置に合わせ、シクネスゲージでその隙間を測定する。

ポイント隙間 $0.3 \sim 0.4\text{ mm}$
範囲外の場合はポイントの交換をする。

株式会社 **SPECIAL PARTS** 武川

〒584-0069 大阪府富田林市錦織東三丁目5番16号
TEL 0721-25-1357 FAX 0721-24-5059
お問い合わせ専用ダイヤル 0721-25-8857
URL <http://www.takegawa.co.jp>